

女子部高等科2年 地理・英語 「マララ・ユスフザイの国連スピーチを問う」

山本隆太・高松功太郎

女子部高等科2年では、「マララのスピーチを問う」という主題を立てた。そして、英語でのスピーチ分析、地理でのパキスタン地域分析を行い、教科横断的で総合的な学びに取り組んだ。

英語では、マララを始め様々なスピーチを取り上げ、「主張」、「構成」、「テクニック」、「歴史的背景」などを整理するとともに、マララのスピーチとの比較検討し、彼女の主張を分析した。地理では、各人の興味や関心に従って「宗教」、「地形」などの「エキスパート（専門家）」グループに分かれて調査するとともに、各専門の知識を組み合わせて、マララが生まれたパキスタンの現状や諸課題の構造や関連性を理解した。

さらに、各人が英語と地理それぞれで調べたことを家族内で共有し、議論を深めた。その結果、自分の担当箇所以外の知識や視点を獲得し、知識を総合するかたちでの学びを深めた。学業報告会では、英語と地理それぞれで学び考えたことをスピーチするとともに、ポスターで報告した。

I. はじめに

総合的な学びとは、古くて新しい教育的主題である。近年では平成元年に生活科が、平成10年には総合的な学習が導入された。またESD（持続可能な開発のための教育）においても、「教科横断的学習」などが重視されている。これらの教育観は自由学園の教育理念にも通底しているといえる。

近年のESDでは、「課題解決」ならびに「グローバル」という観点が、学びの中で求められている。そこで高等科2年では、ノーベル平和賞を受賞したマララ・ユスフザイのスピーチを取り上げ、その背景にある様々な課題について英語と地理の教科横断的に取り組むこととした。

パキスタン生まれのマララ・ユスフザイは、2012年10月スクールバスでの下校途中、武装勢力に銃撃され重傷を負った。一命を取り留めた彼女は世界に対して教育の重要性を訴え続け、2013年7月12日、国連本部での「全ての子供に教育を受ける権利を」というスピーチ（以下、国連スピーチ）を行った。翌2014年にノーベル平和賞を受賞した。

彼女はなぜ銃撃されたのか、また、演説で何を訴えたかったのか。マララの国連での演説を、英語ではスピーチの側面から、地理ではパキスタンの地誌を取り上げた上で、英語と地理の内容を総合する形で考察した。

II. 英語の授業プロセス

(1) スピーチの分析

英語の学習では、表1の通り夏休みから秋にかけて授業を計画的に実施した。英語の側面からは、マララの国連スピーチを、その背景や構成、テクニックの側面から分析をし、マララの主張を読み解いた。国連スピーチを分析するにあたり、比較対象として、以下の4つのスピーチ（※1）の分析も行った。〈〉内はそれぞれのスピーチの内容である。

- Martin Luther King "I have a dream."(1963)
<人種差別>
- Severn Suzuki 『環境と開発に関する国連会議でのスピーチ』(1992) <環境問題>
- Emma Watson 『UN Womankind 親善大使としてのフェミニズムについてのスピーチ』(2014)
<ジェンダー問題>
- Barak Obama 『銃乱射事件に対する緊急声明』(2015) <米国の銃規制>

(2) 価値観の多様性

また、この学習を通し、知識を獲得に伴って自分の考えがどのように変化していくのかを生徒一人ひとりが客観的に捉えられること、また、それをグループ内で共有・議論することで、様々な意見に触れ、互いに刺激を与え合い、「価値観の多

様性」を感じることも狙いとして定め、授業を展開した。毎回の授業の具体的な流れは、以下の通りである。

- ① 学習前の自分の知識・考えをワークシートに記入
- ② ①をグループ内で発表・共有
- ③ その日の学習 例)スピーチの視聴
- ④ ③後の自分の感想をワークシート記入
- ⑤ ④をグループで発表・共有

毎回の授業の始めと終わりに、ワークシートにその時の考えを記入することで、その日の学習を経てどのように考えが変化したかが一目でわかるようにした。また、グループディスカッションでそれぞれの考えを共有・議論することで、様々な意見に触れ、互いに刺激を与え合う機会を設けた。

国連スピーチと4つのスピーチに関する学習では、生徒からの発案で、地理で学習した「ジグソー理論」を用いた。グループ内でそれぞれ担当スピーチを決めて分析し、それをグループに持ち帰り共有することで、スピーチの背景や構成、テクニックをそれぞれ深いレベルで比較することができ、また、スピーチに関する全体的なイメージも共有することが出来た。

(3) 学習の省察とスピーチ

マララ自身についての学習は11月に入ってから行った。これにより、予備知識なしで国連スピーチを視聴した際の感想(9月11日)と、地理の学習も含め、パキスタンやマララの現状についての知識を得た後で再度視聴した際の感想(11月13日)を比較することができ、生徒は自分自身の意識の変化や、正しい知識に基づいた意見の大切さに気付くことができた。

当日の発表では、スピーチに関する考察を行い、その学習の成果として、15分間の英語のスピーチ発表を行った。これは今回の学習を通して生徒たちが学び、感じたことを生徒自らが一から英語で考えたもので、発表の集大成となった。

III. 地理の授業プロセス

(1) 乾燥地帯の学習

地理では、英語と同様、夏休みの宿題から学業報告会にかけて計画し、授業を実施した(表1)。その上で、二学期の最初ではまず、乾燥地帯についての関心喚起や基礎知識の確認を、教科書や資料集を用いて行った。

①乾燥地帯における問題とは？

マララとパキスタンについてのドキュメンタリー映像を見て学業報告会に向けた意欲や関心を高めるとともに、ドキュメンタリーで取り上げられた情報を乾燥地帯の特徴的な出来事(事象)として整理した。各事象の整理にあたっては、まず各事象を付箋に書き出した。次にそれら事象が属する領域・圏(例えば経済領域や大気圏など)に沿って整理を行うため、予め領域・圏が記されたモデル図(関係構造図)のプリントを用いて整理し、気候と経済などそれぞれの関係性を探った。この作業を通じて、乾燥地帯という自然環境と、乾燥地帯にあらわれる食糧や農業、水、砂漠化、貧困といった課題とその関係性を認識した。

②問題の解決とは？

乾燥地帯で生じている問題の解決策について考えるため、以下の手順に従い、システム思考を用いた解決策の可能性を探った。貧困や砂漠化など、現代的課題と関わりのある諸事象を関係構造図上で特定し、線で結びつける(ネットワーク思考)とともに、各事象を原因、結果、影響という3つの段階に便宜上分けた。続いて、一つの事象(主に「結果」にあたる事象)が変化するためには、原因がどう変わるべきなのか、またその結果、影響はどのように変化し、さらには全体がどのように変化する可能性があるか(If-Then 思考)について、模造紙で考えながら、グループで話し合った。

③パキスタンとは？問題とは？

乾燥地帯という広い空間区分から一国家パキスタンへと焦点化するため、改めてパキスタンの自然環境や人間生活について、主題図を重ね合わせながら確認した。河川流域図、土地利用区分図、産業分布図、人口分布図、識字率階級区分図、民族分布図などを重ね合わせて考察した結果、河川流域に都市が集中すること、河川流域と農業地域の分布地域が重なっている一方、河川がない高原や砂漠地域では産業・人口が少ないこと、人口の大多数が穀倉地帯であるパンジャブ州に集中し、

表1 学業報告会に向けた英語と地理の学習展開

時期	英語		地理	
	内容 (英語)		内容 (地理)	
夏休み	英語の伝記を読む (ダイアナ元妃, マンデラ元大統領, オバマ大統領)		乾燥地帯の生活 (レポート課題)	
9月11日	国連スピーチ視聴		乾燥地帯の自然と生活を認識	
課題	国連スピーチを家族ごとに翻訳		乾燥地帯の自然と生活や問題を総合的に理解	
10月8日	翻訳の確認, 国連スピーチ再視聴		パキスタンの地誌	
10月26日	国連スピーチの分析		各人が関心ある内容を調べる (エキスパート)	
10月28日	4つのスピーチ(※1)の視聴・分析		地図の収集	
11月4日	4つのスピーチの視聴・分析		統計資料の収集とグラフの作成	
11月7日	4つのスピーチの分析の共有		写真の収集	
11月9日	スピーチ分析のまとめ		調べ学習のまとめ	
	国連スピーチと4つのスピーチの比較		調べた内容を家族で総合 (ジグソー)	
	マララ自身に関する学習-「Who is Malala?» (伝記) を用いて		PC作業 (ポスター/プレゼンテーションの作成, ICTでのパキスタン人からのアドバイス)	
11月13日	国連スピーチの再分析		〃	
	報告内容の検討		〃	
11月19日	英語による発表者のオーディション		〃	
11月20日	TAによる英語特別授業		〃	

(時期は主として英語授業のもの)

識字率が高いこと, 砂漠や山岳地域には様々な民族が暮らしておりマララの属するパシュトゥーン民族は北西部にいること, などを確認した。

(2) エキスパート (領域別・専門的な探求学習)

- ①各自, パキスタン国内の関心ある領域を1つ取り上げ, 図書館やPCを用いて調べ学習を行った。調べ学習の成果として, 地図, 統計グラフ, 関係図, 写真の収集もしくは作成を行うことを課した。
- ②関心が近い生徒同士を圏・領域という単位でまとめて班を形成するとともに, 班内で共通して必要となる情報を共有・確認した。
- ③日本語で検索等を行っても情報が出てこないことが多いため, 英語で検索するよう指導した。学術論文の検索サイト (ci.nii) も利用した。

(3) ジグソー (共有・再構成)

- ①家族で集まり, 各人がエキスパートとして調べた情報・知識を付箋に書いて示すとともに, 家族全員が調べた情報・知識はどのような関係性になっているか (ネットワーク思考) を話し合った。
- ②「一つの事象が変化するという事で各事象および全体がどのように変化するのか」について, システム思考を用いて考え, 議論した。すでに(1)②で学習した, 様々な事象がシステムとしてまとめ, 関わりあって存在している様子が, 自分た

ちが調べたパキスタンの事例でも応用可能であることを確認した。

(4) 情報をまとめたポスターの作成 (エキスパートベース), 発表原稿の構成 (ジグソーベース)

- ①模造紙を作成するポスターグループ, 報告文を作成する構成グループ, スピーチを作成するスピーチグループ (主に英語担当) の3つのグループにクラスを構成しなおした。
- ②ポスターグループでは, 調べた内容をわかりやすく提示することを目的として, 収集した地図, 統計資料, 写真, さらには自作した関係図をなるべく取り入れながらポスターを作成した。
- ③構成グループでは, 各ポスターグループから寄せられた専門的な情報・知識を, マララの「教育が唯一の解決策」であるか否かを検討するという観点から再構成した。その結果, 貧困, テロ, 女性差別という3つの観点を取り上げながら, マララの国連でのスピーチを再検討することができた。

IV. 学業報告会

これまでの学びで得た結論として学業報告会ではスピーチ発表とポスター掲示を行った。生徒たちは, 「マララが一番伝えたかったことは教育の必要性である」ことと前置きしたうえで, 「しかしそれだけでパキスタンの人々が本当に幸せになれるのだろうか」, 「パキスタンの現状を知るためには,

私たちは『宗教』『貧困』『女性差別』『テロ』についても深く理解しなければならない」と訴えた。さらに「現状を変えるためには教育だけでなく、様々な面からの多角的なアプローチが必要である」と述べた。その多角的なアプローチとは、パキスタンを専門的かつ総合的に捉えるものである。



学業報告会スピーチ



ポスター(例: パキスタンの地形)

V. 生徒の感想

報告会后、生徒たちの感想には、「マララさんの勇気ある行動は素晴らしい」、「物事を多角的に見る大切さを感じた」、「自主性・主体性を持って取り組めた」、「新たな知識を得る楽しさとその必要性を感じた」との意見が多くみられた。また、「クラスのまとまりが更に強くなった」として自信をつけた者もいた。

VI. 教科横断学習の成果と課題

今回報告した地理と英語による教科横断的な学習には、生徒の関心を高めることに加え、各教科の学習が繋がっていることを経験する機会となったといえる。各教科で学ぶ知識やスキルが有機的

に結びついていくことで、本当の学びの力が育っていくことを願う。

また、一連の学習プロセスは、近年話題となっている汎用的な能力資質(コンピテンシー)の育成や、アクティブラーニングと共通している。地理の内容を英語で発表することや、英語を使ってパキスタンの人とコミュニケーションをすることは、まさに学んだことを「具体的な文脈に応じて応用・活用する」場面であり、学校内でも教科を横断することでこうした機会を確保できる。

また、例えば、地理で学んだパキスタンの情報や知識については、英語教員は専門としていない。だからこそ生徒は自分自身で、地理の知識や考え方に責任を持ち、英語で伝えなければいけない。

英語で学んだ表現方法について、地理教員が精通しているとは限らない。英語教員のいない地理授業で英語表現を使うためには、しっかりと自分で理解し、身につけていなければ使えない。

教科横断的な学習とはこうした、他教科で学習したことの応用の場としての意義が認められる。

最後に、課題について言及しておく。まず従来のカリキュラムは各教科別に編成されているため、教科横断的な学習のための調整は容易ではない。この状況を打開するためには、初回あるいは最後の授業を従来のカリキュラムから解放し、教科を横断した内容を扱ってみるなど、まずは実践が可能範囲で試みるのが肝要である。また、教科をまたいだ学習は、応用的な側面があることを述べたが、応用力の評価は一般に難しいとされている。ルーブリックやポートフォリオの活用が有効と考えられるが、より詳細な検討が必要といえる。

【謝辞】日本パキスタン協会の方々には伝統衣装貸出と情報提供でお世話になりました。パキスタン研究者村山和之氏、パキスタン人サボール・カカール氏には諸般ご指導頂きました。本学園の星住リベカ先生、橋本真人先生にもご教示を頂きました。記してお礼申し上げます。

【主な参考文献】

広瀬崇子, 小田尚也, 山根聡. 2003. パキスタンがわかる 60章. 明石書店. 352.
マララ・ユスフザイ. 2013. わたしはマララ. 学研マーケティング. 42